

むかいしま ゆた しぜん い 『向島の豊かな自然と生きものたち』

だい かい 第26回 トンボ

2005年に「つるかめクラブ」メンバーの故・向井靖夫医師を中心に、向島のトンボ調査をしてから10年の月日が流れました。

この10年間に、向島のトンボ生息地の変化(水路や池など水辺の減少)もあり、生息種数の変化もあるように思います。

今回は身近な昆虫の代表でもある「トンボ」に目を向けて、すばらしい生態や姿形に興味をもってもらえたらよいと思います。

トンボの目は「複眼」といって小さい目がいっぱい集まってできていて、とても良く見えるそうです。

飛びながら小さい昆虫をつかまえています、大型のトンボがアゲハチョウをつかまえた所を見たこともあります。そんなに目がいいのに、夏から秋にかけて車に衝突して死んだりしているのを見ることもあり、とても悲しい気持ちになります。

いろいろな昆虫に通じることですが、トンボの種類によって発生時期や生息場所、食べるものなど…生態そのものが種の多さと同じように変化に富み、知れば知るほどおどろきとすばらしさの発見に興味は深くなり、尽きることのないトンボの世界ですね。

10年前の調査では、向島に35種のトンボが確認され、その後3種が追加確認されましたが、現在はすでに姿が見られない種が4～5種あります。

10年前にはあった池が、道路をつくるために失われたりして、水辺の様子が変わったのが原因のひとつかもしれませんね。

1匹のトンボが卵から生まれてヤゴになり、成虫になって美しい羽根をはばたかせて大空に舞う…どこにでもある自然の姿や環境がこの向島にいつまでも続いてほしいと願います。